

公益目的事業 1（平和推進事業）

被爆体験継承普及事業

1 修学旅行生への被爆体験講話等

平和学習のために来広した修学旅行生を始めとする国内外からの来訪者等を対象に、被爆体験講話を行うとともに、原爆記録ビデオ等を上映しました。

また、夏休み期間中には、事前予約不要かつ無料の講話を開催しました。



被爆体験講話の様子

（１）被爆体験講話実施状況

（単位：人）

区 分	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度
小 学 校	(344) 25,277	(544) 36,886	(683) 47,087
中 学 校	(166) 17,379	(399) 37,390	(311) 32,695
高等学校	(54) 5,960	(249) 27,692	(148) 19,055
そ の 他	(69) 2,839	(272) 8,045	(703) 14,626
計	(633) 51,455	(1,464) 110,013	(1,845) 113,463

（ ）内は件数

（２）申込方法

- ① 受 付 希望日の 1 年前の当日から受け付けます。オンライン予約システムでご予約ください。

- 被爆体験講話等オンライン予約システム

URL : <https://www.hpmm-testimony.jp/>

- ② 問合せ先 広島平和記念資料館 啓発課
〒730-0811 広島市中区中島町 1 番 2 号
受付専用電話 : (082) 541 - 5544
受付時間 : 9 時～17 時

[休館日（12 月 30 日及び 31 日）は、受け付けておりません。]

- ③ 会 場 ● 広島平和記念資料館東館
メモリアルホール、会議室（１）、会議室（２）

● 国立広島原爆死没者追悼平和祈念館

研修室 1・2、研修室 3

※ 会場の定員については、オンライン予約システムでご確認ください。

④ 実施時間

● 次の時間帯（60 分間）からお選びください。

9:30～10:30、11:00～12:00、13:00～14:00、14:30～15:30、

16:00～17:00、17:00～20:00の間のいずれか 60 分間

※ ③の会場での受講は 17 時までです。下線を引いた時間帯は、他の会場を確保された場合のみです。

⑤ 受講費用

なし

令和 6 年（2024 年）4 月 1 日の講話から、本財団が委嘱する被爆体験証言者が広島市内で実施する被爆体験講話の講師謝礼金^(※)が無料（本財団が負担）となりました。

なお、被爆体験伝承講話・家族伝承講話の講師謝礼金については、これまでと変更なく、無料（本財団が負担）です。

(※) 申込者（聴講者）が手配する会場への派遣も含みます（謝礼金以外の会場費などの運営費用はご負担ください）。なお、会場のみの申込で、当館以外の団体に講師を依頼する場合は、謝礼金や交通費などについて、直接当該団体とのやりとりをお願いします。

広島市外での実施については国立広島原爆死没者追悼平和祈念館にお問い合わせください。

〔国立広島原爆死没者追悼平和祈念館〕

問合せ先電話（082）207－1202

被爆体験伝承者等派遣事業ホームページ

<https://www.hiro-tsuitokinenkan.go.jp/project/successors/>

（３）被爆体験証言者（本財団委嘱）名簿

令和 6 年 6 月 1 日現在・50 音順 敬称略

氏 名	被 爆 時 の 状 況
あらい しゅんいちろう 新 井 俊一郎	中学 1 年生であった 13 歳の時、食糧増産で農村支援出動先の東広島市から広島へ向かう途中、原爆炸裂の閃光を見て広島市内へ入った。
いいだ くにひこ 飯 田 國 彦	3 歳の時、爆心地から 900m 離れた母の実家で、母に呼ばれて家の中に入った時に被爆。
いしばし きくこ 石 橋 紀久子	5 歳の時、爆心地から 2.2km 離れた自宅の座敷にいたときに被爆。
いとう まさお 伊 藤 正 雄	4 歳半の時、爆心地から 3.2km 離れた自宅前の道路で、三輪車に乗って遊んでいるときに被爆。
うさみ せつこ 宇佐美 節子	3 歳の時、爆心地から 4.1km 離れた自宅の縁側で遊んでいるときに被爆。

おおた かねじ 大 田 金 次	幼稚園児であった 5 歳の時、爆心地から 800m の自宅で、幼稚園に行くため玄関を出たときに被爆。
おぐら けいこ 小 倉 桂 子	小学校 2 年生であった 8 歳の時、爆心地から 2.4km 離れた自宅近くで被爆。被災し、避難してきた被爆者たちの悲惨な光景を目の当たりにした。
かさおか さだえ 笠 岡 貞 江	高等女学校 1 年生であった 12 歳の時、爆心地から 3.5km 離れた自宅で被爆。
かじもと よしこ 梶 本 淑 子	高等女学校 3 年生であった 14 歳の時、爆心地から 2.3km 離れた動員先の工場で、飛行機のプロペラ部品を作る作業中に被爆。
かじや ふみあき 梶 矢 文 昭	小学校 1 年生であった 6 歳の時、爆心地から 1.8km の分散授業所で朝の掃除をしているときに被爆。
かわさき ひろあき 川 崎 宏 明	小学校 1 年生であった 7 歳の時、爆心地から 1.3km 離れた自宅の玄関で靴を履き終えた時に被爆。
きしだ ひろこ 岸 田 弘 子	6 歳の時、爆心地から 1.5km 離れた自宅で、トイレの中で被爆。
きりあけ ちえこ 切 明 千 枝 子	高校 1 年生の 15 歳の時、病院に向かう途中、爆心地から 2.5km 離れたところで被爆。
こうの きよみ 河 野 キヨ美	女学校 2 年生であった 14 歳の時、爆心地から 35km 離れた郊外の自宅で広島市への原爆投下を知る。翌日、2 人の姉を探しに市内に入った。
こんどう やすこ 近 藤 康 子	4 歳の時、爆心地から 3.5km 離れた川の中で、友達と遊んでいたときに被爆。
さいき みきお 才 木 幹 夫	13 歳の時、爆心地から 2.2km 離れた自宅で、外出するため靴を履こうとしたときに被爆。
さこだ いさお 迫 田 勲	7 歳の時、爆心地から北西に約 19km 離れた山中で、屋外での作業後に放射性物質を含んだ「黒い雨」に打たれた。その後、2022 年 4 月に被爆者として認定された。
さど いくこ 佐 渡 郁 子	小学 2 年生であった 7 歳の時、爆心地から 870m 離れた祖母の家の庭で、妹と砂遊びをしていたときに被爆。
しみず ひろし 清 水 弘 士	3 歳の時、爆心地から 1.6km 離れた自宅で、母と遊んでいた庭から家の中に入ったときに被爆。
たきぐち ひでたか 瀧 口 秀 隆	4 歳の時、爆心地より 1.8km の自宅で朝食後、外にいたら飛行機の声がしたため急いで帰り 玄関の引戸を閉めようとした時に被爆。
てらまえ たえこ 寺 前 妙 子	高等女学校 3 年生であった 15 歳の時、爆心地から 550m 離れた動員先の広島中央電話局で、2 回目の作業にかかるため廊下に整列していた時に被爆。
ないとう しんご 内 藤 慎 吾	6 歳の時、爆心地から 1.7 km 離れた自宅で、庭にある防空壕 べんけいかに の入口で弁慶蟹を捕まえようとしやがんだときに被爆。
パク ナムジュ 朴 南 珠	女学校 1 年生であった 12 歳の時、妹と弟を疎開先まで送っていくために乗った路面電車が、爆心地から 1.9km 離れたところにいたときに被爆。
はらだ ひろし 原 田 浩	幼稚園児であった 6 歳の時、爆心地から 2km 離れた広島駅のプラットホームで列車を待っていたときに被爆。
ひろなか まさき 廣 中 正 樹	5 歳の時、爆心地から 3.5km 離れた自宅前の小川で遊んでいたときに被爆。

みどう よしゆき 御 堂 義 之	9 歳の時、爆心地から 1.5km 離れた自宅前で被爆。崩れた家の下敷きになった。
やはた てるこ 八 幡 照 子	8 歳の時、爆心地から 2.5km 離れた自宅から出掛けようとした時に裏庭で被爆。
やませ じゅんこ 山 瀬 潤 子	8 歳の時、爆心地から 2.2km 離れた自宅で被爆。
やまもと さだお 山 本 定 男	中学校 2 年生であった 14 歳の時、爆心地から 2.5km 離れた東練兵場で、畑の草取り作業のため集合していたときに被爆。
やまもと れいこ 山 本 玲 子	小学 1 年生であった 7 歳の時、爆心地から 4.1km 離れた学校の校庭で、飛行機を見上げていたときに被爆。
わかやま とみこ 若 山 登美子	小学校 1 年生であった 6 歳の時、原爆投下から 3 日後、父を探しに家族と一緒に広島市内へ入った。
わきます ともこ 脇 舩 友 子	3 歳の時、母の実家がある安芸高田市から呉市の自宅へ車で戻る途中、原爆投下により車が止まり、母に背負われ、線路沿いに広島市内へ入った。

2 ヒロシマ・ピース・ボランティア事業

(1) 事業の概要

被爆体験を持たない市民も含め、市民参加による被爆体験の継承活動を推進していくため、平成 11 年度（1999 年度）から広島平和記念資料館の展示解説（定点解説及び移動解説）及び平和記念公園内の慰霊碑等の移動解説を行うヒロシマ・ピース・ボランティア事業を実施しています。

令和 6 年 6 月 1 日現在、ヒロシマ・ピース・ボランティアの登録者数は 192 人です。

令和 5 年度は、平和記念公園内の移動解説を 3,428 団体 19,621 人に対し実施しました。館内混雑のため、館内解説は休止しました。

(2) 活動内容・予約方法

ヒロシマ・ピース・ボランティアの活動時間は午前 10 時 30 分から午後 3 時 30 分までで、定点解説と移動解説があります。いずれも無料です。館内の混雑状況により一部変更となる場合があります。事前にお問い合わせください。

① 定点解説

資料館の展示の解説を行います。

② 移動解説

資料館の展示や平和記念公園の慰霊碑等を一緒に歩きながら解説します。

※ 現在、館内の移動解説は休止しています。

ア 所要時間

資料館：60 分間程度

平和記念公園：60 分間～90 分間程度



平和記念公園内の慰霊碑を解説するヒロシマ・ピース・ボランティア

イ 人数

資料館：1 グループ 10 人まで

平和記念公園：1 グループ 10 人まで

ウ お申込み

● 事前予約

解説希望日の1年前の当日から1週間前まで受け付けます。電話でお申し込みください。

受付時間：午前9時～午後5時

[資料館の休館日（12月30日及び31日）は受け付けていません。]

● 当日受付

状況により異なりますので、以下へご確認ください。（混雑状況等により対応できない場合があります。）

〔事前予約お申込み・お問合せ〕

広島平和記念資料館 啓発課まで

受付専用電話（082）541 - 5544

3 被爆者証言ビデオの制作

被爆体験者の高齢化が進む中、被爆体験者の証言を映像に収め、被爆体験の継承に活用することを目的とし、昭和61年度（1986年度）から被爆者の証言ビデオを制作してきました。

令和5年度は、7人分の証言ビデオを制作しました。平成7年度（1995年度）に制作した在韓被爆者の証言ビデオ、及び平成17年度（2005年度）と平成18年度に制作した聴覚障害のある方の手話による証言ビデオを含め、総本数は1,317本になりました。



証言収録風景

（令和6年3月31日現在）

種 類	内 容	本 数
オリジナル版	カラー 約20分（約20分×1人）、家庭用VHS・DVD	1,146本
ダイジェスト版	カラー 約30分（約10分×3人）、家庭用VHS・DVD	171本

4 被爆体験証言者交流の集いの運営

広島で被爆体験の証言活動などを行っている団体間の情報交換と研修を目的として、昭和62年（1987年）10月9日に「被爆体験証言者交流の集い」（事務局一本財団）が発足しました。

(1) 全体会議の実施

開催日 令和6年3月15日(金)
場 所 広島平和記念資料館東館地下1階 会議室(2)
主な内容 令和5年度被爆体験講話等実施状況報告、団体相互の情報交換等

(2) 構成団体一覧表(16団体)

令和6年6月1日現在

広島平和教育研究所	原爆被害者相談員の会
広島県原爆被爆教職員の会	平和のためのヒロシマ通訳者グループ
広島県高等学校原爆被爆教職員の会 (広島県高等学校退職教職員協議会)	広島医療生活協同組合原爆被害者の会
韓国原爆被害者対策特別委員会	広島県被爆二世団体連絡協議会
広島県朝鮮人被爆者協議会	広島被爆者援護会
広島県原爆被害者団体協議会 (被爆を語り継ぐ会)	被爆証言の会
広島県原爆被害者団体協議会	ヒロシマを語り継ぐ教師の会
	ヒロシマを語る会
	公益財団法人広島平和文化センター

5 平和文化センターインターンシップ事業

本財団は、平成15年度(2003年度)から、大学生等を実習生として受け入れるとともに、中・高等学校における総合的な学習の一環として職場体験学習を希望する学校の生徒の受入れにも積極的に協力しています。

こうした実習生や生徒に対し、広島平和記念資料館等で業務を経験してもらい、被爆地ヒロシマについて理解を深める機会を提供することは、次世代への被爆体験の継承及び平和意識の醸成に資することから、平成20年度(2008年度)からは「平和文化センターインターンシップ事業」として実施しています。

【事業の概要】

- ① 主 な 業 務 平和の推進や国際交流・協力に関する業務、平和記念資料館での来館者対応 等
- ② 主な業務場所 平和記念資料館、広島国際会議場、原爆死没者追悼平和祈念館 ほか
- ③ 令和5年度のインターン受入れ実績

学 校 名	受入人数	受入期間	実習実施担当課
広島市立大学	2	6/23～7/3 (うち2日間)	総務課、平和首長会議運営課、追悼平和祈念館、資料館 啓発課
広島修道大学	4	7/31～8/31 (うち5日間)	総務課、平和市民連帯課、国際市民交流課、追悼平和祈念館
矢野中学校	2	6/7～6/8	総務課、平和市民連帯課、国際会議場
庚午中学校	4	7/13	国際市民交流課

井口中学校	2	7/18～7/20	総務課、施設課、資料館 学芸課、国際会議場、追悼平和祈念館
古田中学校	2	1/24～1/26	総務課、施設課、資料館啓発課、資料館学芸課、国際会議場
日本ダウン症協会	2	8/16～8/24（うち2日間）、 3/21～28（うち2日間）	総務課

6 ヒロシマ・ピースフォーラムの開催

市民に、「平和の原点」としての「ヒロシマ」を見つめ直し、原爆や平和について考え、どのように行動していけばよいかを探求する機会を提供するため、「ヒロシマ・ピースフォーラム」を開催しています。

令和5年度は、核兵器をめぐる国際情勢やG7広島サミットをテーマにした講義、若者による被爆体験を継承する取組の発表、シュモーターハウス及び本川小学校平和資料館^{ほんかわ}の見学など、受講者に様々な視点から原爆や平和について考えていただく講座を実施しました。

期 間 【前期】令和5年5月～7月（土曜日、全3回）

【後期】令和5年10月～12月（土曜日、全3回）

場 所 広島平和記念資料館 ほか

対象者 18歳以上

受講者 【前期】104人

【後期】93人

7 国内原爆写真展用資料の普及・活用

昭和53年度（1978年度）から、ヒロシマ・ナガサキ原爆写真パネルを、また、昭和57年度（1982年度）から同ポスターを、無料で全国の学校・各種団体等に貸し出しています。

貸出件数は、16頁「12 原爆展・平和学習用資料の普及・活用」の「（1）貸出件数」をご覧ください。

8 中・高校生ピースクラブの開催

原爆被害の実相を講義や実習を通して学び、平和への見識を高めることにより、平和推進の人材育成を図ることを目的として、平成14年度（2002年度）から、中・高校生を対象にした「中・高校生ピースクラブ」を開催しています。

令和5年度は中・高校生40人が参加し、資料館見学や碑めぐり、ヒロシマ青少年平和の集いの開催や、福岡県での研修及び北九州市平和のまちミュージアムの青少年との交流会など、11回にわたり様々な活動に取り組みました。

参加者は1年間の活動を通して、「核兵器や戦争のない世界を実現すべく、私たち一人ひとりが平和を伝えていく」という思いを新たにしました。

9 平和学習講座

被爆の実相や核兵器廃絶への取組などについての理解を深めてもらうとともに、身近なレベルで平和について考え、自ら平和に取り組む意識を醸成するため、学校等に講師を派遣し、平和学習講座を行っています。

この講座は、写真や市民が描いた原爆の絵、図表、イラスト、核実験の映像、模型等により原爆被害の実相や核兵器をめぐる世界の状況を説明するとともに、熱線で表面が泡状に溶けた瓦に実際に触れて原爆被害を理解していただくものです。

令和5年度は、95回（小学校49回、中学校17回、高等学校8回、その他21回）講座を実施しました。また、夏休み期間中には、事前予約不要かつ無料の講座も実施しました。



講座の様子

10 平和記念資料館平和学習ワークブック等の作成

修学旅行生等が、平和記念資料館の見学を通して、より効果的に被爆の実相を学び、平和を目指す自主的な取組につなげることができるよう、「広島平和記念資料館平和学習ワークブック」等を作成し、配付しています。

【令和5年度作成部数】

広島平和記念資料館 平和学習ワークブック	小学生用	0部
	小学生指導者用	10,000部
	中・高校生用	140,000部
	中・高校生指導者用	10,000部
広島平和記念資料館 学習ハンドブック	小学校4～6年生用	105,000部
	中・高校生用	80,000部
平和記念公園めぐり		165,000部

11 国内原爆・平和展の開催

原爆被害の実相を伝え、核兵器廃絶と世界恒久平和の実現に向けた世論の醸成を図ることを目的として国内各地の都市で原爆・平和展を開催しています。

令和5年度は、東北2都市（仙台市、山形市）において開催し、原爆で犠牲になった方の遺品等の被爆資料、被爆の実相と核兵器の現状を伝える写真パネル、高校生と被爆体験証言者が共同で描いた原爆の絵などを展示しました。また、展示の開催に併せ、本財団



原爆・平和展会場の様子（山形市）

被爆体験証言者である梶本淑子^{かじもとよしこ}さんを仙台市に、山瀬^{やませ}潤子^{じゅんこ}さんを山形市に派遣し、自身の被爆体験を語っていただきました。



被爆体験講話の様子（仙台市）

実施の概要

【仙台市】

期間：7月7日（金）～7月17日（月・祝）
（11日間）

場所：仙台市戦災復興記念館
地下1階 展示ホール他

来場者数：3,473人

【山形市】

期間：7月28日（金）～8月9日（水）（13日間）

場所：山形市役所 1階 エントランスホール

来場者数：4,084人

12 原爆展・平和学習用資料の普及・活用

原爆展の開催や修学旅行の事前学習等の平和学習に活用できるヒロシマ・ナガサキ原爆写真パネル・ポスターや、平和に関する各種ポスター、絵、映像資料（DVD）等を、全国各地の学校及び各種平和団体並びに自治体等に貸し出しています。

（1）貸出件数（令和5年度）

（単位：点）

貸出資料	点数
ヒロシマ・ナガサキ原爆写真ポスター	88
ヒロシマ・ナガサキ原爆写真パネル	41
市民が描いた原爆の絵（複製）、各種ポスター、絵本セット等	422
DVD等映像資料	469
合 計	1,020

（2）貸出方法

- ① 使用料は無料です。
- ② 運搬等（発送・返却）にかかる経費は使用者の負担となります。ただし、ヒロシマ・ナガサキ原爆写真ポスター、同パネルについては、返却にかかる経費のみ使用者の負担となります。
- ③ 貸出希望日の1年前の同日から受け付けます。まず、電話でお申し込みください。受付後申込確認書を送付します。

〔お申込み・お問合せ〕

広島平和記念資料館 啓発課まで

〒730-0811 広島市中区中島町1番2号

受付専用電話（082）541 - 5544（受付時間 9 時～17 時）

〔休館日（12 月 30 日及び 31 日）は、受け付けておりません。〕

1 3 英語で伝えようヒロシマセミナー

原爆被害に関する知識と英語での表現方法について学ぶ機会を提供することにより、受講者が外国人と交流する中で、世界のより多くの人々に被爆の実相を伝えていくことを目的として、当セミナーを開催しています。

令和 5 年度の開催日・内容

	第一回	第二回
開催日	令和 5 年 4 月 29 日（土）	令和 5 年 11 月 19 日（日）
会場	平和記念資料館 地下 1 階メモリアルホール	平和記念資料館 地下 1 階会議室（1）
参加者数	95 人	22 人
内容	佐藤 仁美さん（全国通訳案内士／ひろしま・通訳ガイド協会（HIGA）英語会員）による講演。	笹森 恵子さん（在米被爆者）がオンラインでアメリカ LA から講演。

1 4 被爆体験伝承者による伝承講話の実施

広島平和記念資料館の来館者等を対象に、事前予約不要かつ無料で被爆体験伝承者及び家族伝承者による講話を定時開催しています。また、学校等からの依頼を受けて、市内の会場に無料で伝承者を派遣し、伝承講話を行っています。

（※）被爆体験伝承者は平成 27 年度から、家族伝承者は令和 5 年度からそれぞれ活動を開始しました。

（1）定時講話

① 実施状況（令和 5 年度）

（ ）は家族伝承・内数

区分	件数	聴講者数
日本語での講話	1,042 件（46 件）	9,464 人（411 人）
英語での講話	337 件（9 件）	5,111 人（154 人）
計	1,379 件（55 件）	14,575 人（565 人）

② 日時・会場（通常時）

日 時 原則、休館日を除く毎日

10:00～11:00（日本語）、11:30～12:30（日本語）

13:00～14:00（英語）、14:30～15:30（日本語）

※ 都合により、変更となる場合があります。

会 場 広島平和記念資料館東館地下1階 特別展示室

（２）派遣講話（広島市内）

① 実施状況（令和５年度）

（）は家族伝承・内数

区 分	件 数	聴講者数
日本語での講話	340 件（2 件）	28,736 人（26 人）
英語での講話	79 件（0 件）	1,422 人（0 人）
計	419 件（2 件）	30,158 人（26 人）

② その他

申込方法は、8 頁「1 修学旅行生への被爆体験講話等」の「（２）申込方法」をご覧ください。

1 5 平和記念資料館収蔵資料の保存措置の強化

被爆から長い時間が経過している状況に対応するため、平成 28 年度（2016 年度）から広島平和記念資料館収蔵資料の保存措置の強化を行っています。

令和 5 年度は、前年度に引き続き、①被爆資料の収集・整理、②展示室及び収蔵庫の環境調査及び環境改善、③資料の劣化状況調査及び展示・収蔵方法の改善、④資料の保存措置とレプリカ作成、⑤映像のデジタル化、⑥学芸員の資料保存専門研修受講等を行いました。

また、資料館が所蔵する被爆直後に撮影された写真の原板について、日本写真保存センターを経由し、国立映画アーカイブ相模原分館のフィルム保管庫へ収蔵しました。

1 6 被爆資料の収集等の強化

（１）被爆資料の収集の強化

被爆の実相を知り、原爆被害の詳細を明らかにする手段として、写真資料は重要な意味を持っています。原爆投下後の広島には占領軍として入った外国人が多数おり、彼らが任務として、あるいは駐留中に個人的に撮影した写真が、海外に未だ多数存在していると考えられています。広島平和記念資料館では、これまでも昭和 49 年（1974 年）に長崎市と共同で渡米調査を行った他、平成 25 年度（2013 年度）及び平成 28 年度（2016 年度）は米国、平成 29 年度（2017 年度）は米国・ニュージーランド、平成 31 年度（2019 年度）は英国・米国の資料所蔵機関等でそれぞれ資料の調査・収集を行いました。令和 2～4 年度は新型コ

ロナウイルス感染状況を鑑み中止しましたが、令和 5 年度は英国の帝国戦争博物館及び国立海事博物館で所蔵資料の調査・収集を行いました。

（２）海外博物館とのネットワークの強化

英国での「ヒロシマ・ナガサキ原爆・平和展」の事前協議及び開催に合わせて、スペイン・ゲルニカ＝ルモ市のゲルニカ平和博物館など開催地近辺の平和をテーマとした博物館等を訪問し、今後の連携の可能性について協議を行いました。また、これまで培ったネットワークを活用し、米国の核実験博物館（米国・ラスベガス市）と「海外へのオンライン被爆体験証言」の一環として米国市民向けの被爆体験証言を共同で実施するなどしました。

１７ 平和記念資料館ボランティアスタッフ活動支援事業

広島平和記念資料館の来館者等に被爆の実相などを正確かつ効果的に伝えるため、資料館の各種事業に携わるボランティアスタッフを対象に、体系的な研修を継続的に実施しています。

対 象 被爆体験証言者、ヒロシマ・ピース・ボランティア、平和学習講座講師、被爆体験伝承者など

内 容 総合研修（５回）、英語研修（１５２回）、人権研修（１回）、パソコン研修（２回）

参加者 延べ 626 人

１８ 広島平和記念資料館の企画展の実施

広島平和記念資料館は数多くの被爆資料を収蔵し、それらを常設展示することによって、来館者に人類史上最初の前爆投下による被害の実相、核戦争の悲惨さを伝えています。常設展を補完し、核兵器廃絶と世界恒久平和の実現を希求する「ヒロシマの願い」への理解をさらに深めてもらうため、平成 6 年度（1994 年度）から企画展を開催しています。実績は次のとおりです。

令和 5 年度までの企画展開催実績

年度	タ イ ト ル	期 間
平成 6	開館記念収蔵資料展 ―平和の回廊―	6/1～6/30 30 日間
	写真展 ―あるとき広島は―	3/1～4/20 51 日間
7	被爆 50 周年資料館開館 40 周年記念 ―ヒロシマの軌跡―	7/15～8/27 44 日間
	原爆ドーム世界遺産化展 ―（ユネスコへの登録申請時）―	10/1～10/13 13 日間
8	収蔵資料展 ―あの日、そして灼けついた記憶―	7/20～9/1 44 日間
	原爆ドーム世界遺産化展 ―（ユネスコへの登録決定時）―	1/29～2/28 31 日間
9	きの子雲の下に子どもたちがいた ―おじいちゃん、おばあちゃんに聞く戦争のころのはなし―	7/19～8/31 44 日間
	公園の下に眠る街、爆心地・中島地区	11/1～11/30 30 日間
10	子どもたちの戦場 ―集団疎開、おとうさんおかあさんと離れて―	7/17～9/30 76 日間
	銃後を支える力となって ―女性と戦争―	2/1～4/30 89 日間

11	広島平和記念都市建設法制定 50 周年記念 焼け跡に響く子どもたちの声 ―焦土から平和都市へ―	7/7～9/30	86 日間
	メリーランド大学所蔵「プランゲ文庫」展 活字から見る占領下の日本 ―プレスコードと広島―	8/2～8/31	30 日間
	ヒロシマを切り撮った眼	3/1～7/9	131 日間
12	質問でつづるふしぎ発見 原爆 ―見えない放射線の被害―	7/19～10/16	90 日間
	よみがえる歴史の記憶 ―一瞬に消え去った爆心の町―	3/16～7/9	116 日間
13	2000 年 - 2001 年記念事業 サダコと折り鶴 ―時を超えた ^{いのち} 生命の伝言―	7/19～12/16	151 日間
	終戦後の子供のくらし ―メリーランド大学所蔵プランゲ文庫 「村上寿世記念児童コレクション」に探る―	9/1～9/28	28 日間
	ヒロシマの証言 ―奪われた街・残されたもの―	3/1～7/10	132 日間
14	焼け野原に人々を助けて ―薬も食べ物もない中で続けられた救 援活動―	7/18～12/1	137 日間
	原爆の絵 ―市民の手によるヒロシマの記録―	3/5～7/6	124 日間
15	原子爆弾ナリト認ム ―原爆投下後に行われた被爆調査の軌跡を追う―	7/25～12/15	143 日間
	似島が伝える原爆被害 ―犠牲者たちの眠った島―	3/3～7/11	131 日間
16	動員学徒 ―失われた子どもたちの明日―	7/16～12/15	153 日間
	第三の被爆・第五福竜丸とヒロシマ	2/15～6/30	136 日間
17	被爆 60 周年資料館開館 50 周年記念 廃虚の中に立ちあがる ―平和記念資料館とヒロシマの歩み―	7/11～12/18	161 日間
	宮武甫・松本榮一写真展 ―被爆直後のヒロシマを撮る―	3/15～9/28	198 日間
18	託された過去と未来 ―被爆資料・遺影・体験記全国募集 新着資料より―	7/20～7/10	356 日間
	林重男写真展	2/15～7/17	165 日間
19	海外からの支援 ―被爆者への援助と込められた再建への願い―	7/25～10/31	99 日間
	菊池俊吉写真展 ―昭和 20 年秋・昭和 22 年夏―	2/14～7/15	153 日間
20	被爆建造物は語る	7/24～12/15	145 日間
	廃虚にフィルムを回す ―原爆被災記録映画の軌跡―	2/25～7/15	141 日間
21	広島平和記念都市建設法制定 60 周年記念 佐々木雄一郎写真展 第一部 平和を築く	7/18～12/15	151 日間
	広島平和記念都市建設法制定 60 周年記念 佐々木雄一郎写真展 第二部 平和を誓う	2/3～7/12	160 日間
22	広島平和記念資料館・国立広島原爆死没者追悼平和祈念館共同企 画展 国民義勇隊 ―原爆被害を大きくした広島市の建物疎開―	7/16～12/15	153 日間
	こどもたちの見た戦争 ―はだしのゲンとともに―	2/4～7/11	158 日間
23	生きる ―1945.8.6 その日からの私―	7/15～12/14	153 日間
	広島、1945 ―写真が伝える原爆被害―	2/3～7/9	158 日間
24	基町 ―姿を変える広島開基の地―	7/13～12/12	153 日間
	君を想う ―あのときピカがなかったら―	2/8～7/15	158 日間
25	はだしのゲン原画展 ―生きて生きて生きぬいて―	7/19～9/1	45 日間
31	市民が描いた原爆の絵―記憶と向き合う―	4/25～12/26	245 日間

令和 1	海外収集資料から見る広島原爆被害と復興	12/27～2/28 6/1～7/20 計 (2/29～5/31 112 日間 は臨時休館)
2	被爆 75 年企画展 広島平和記念資料館のあゆみ 第一部 礎を築く―初代館長 長岡省吾の足跡	7/22～2/23 計 (12/14～2/7 161 日間 は臨時休館)
	被爆 75 年企画展 広島平和記念資料館のあゆみ 第二部 8 月 6 日へのまなざし―資料を守り伝え続ける	2/27～7/18 計 (5/10～6/20 100 日間 は臨時休館)
3	焼け跡もの語り	9/17～2/13 計 (9/17～30、 102 日間 1/13～2/13 は臨時休館)
	原爆と医療―救護活動から医学調査へ―	3/25～9/12 172 日間
4	爆心直下の町―細工町・猿楽町	9/16～3/21 計 185 日間
	広島戦災児育成所―子どもたちと山下義信―	3/24～9/11 計 (5/19～5/21 169 日間 は臨時休館)
5	新着資料展―令和 3 年度寄贈資料	9/14～2/27 計 165 日間
	ともだちの記憶	3/1～9/10 計 (予定) 194 日間 (予定)

※再整備事業による改修工事のため、平成 25 年(2013 年)9 月から平成 31 年の全館オープンまで企画展は休止しました。

○ 令和 5 年度第 1 回企画展「新着資料展―令和 3 年度寄贈資料」

広島平和記念資料館には、現在でも被爆者やその遺族の方々などから、大切にしてきた遺品をはじめとする被爆資料、自らの体験を描いた絵、当時の状況を撮影した写真などの資料が寄せられ続けています。この展示会では、令和 3 年度(2021 年度)に寄贈された 744 点の資料から、150 点を紹介しました。



大火傷を負った息子に着せた父親のワイシャツ
(個人寄贈)



展示の様子

期 間 令和 5 年 9 月 14 日（木）～令和 6 年 2 月 27 日（火）

場 所 広島平和記念資料館東館 1 階 企画展示室

内 容 現物資料、写真パネルなど約 150 点

○ 令和 5 年度第 2 回企画展「ともだちの記憶」

1945 年（昭和 20 年）8 月 6 日、広島に原子爆弾が投下され、たくさんの中学生や女学生が傷つき、亡くなりました。今回の企画展では、遺品や絵・証言より、少年少女たちの生死を分けた状況や、生き残った者の負い目や苦しみ、そして友の死を悼み、鎮魂の思いを込めて残した記録を紹介しました。原爆が友の体を奪っても、別つことができなかった彼らの友情を通じて、平和と命の尊さ、他者を思いやる大切さを感じてもらう機会となりました。

期 間 令和 6 年 3 月 1 日（金）～9 月 10 日（火）

場 所 広島平和記念資料館東館 1 階 企画展示室

展示点数 現物資料など約 150 点



チラシ・パンフレット



展示の様子

19 ユースピースボランティア事業

次代を担う青少年自らが平和の大切さを学び、ヒロシマの心を国内外に伝える機会を創出するため、平和記念公園を訪れる外国人に対して被爆の実相を英語で伝えるボランティアガイドを育成し、その活動を支援しています。

令和 5 年度は、76 人（高校生 41 人、大学生 35 人）がユースピースボランティアとして登録し、被爆の実相や異文化理解に関する研修、平和記念公園を訪れる外国人観光客へのガイド活動などを実施しました。

【活動実績】

- ① 被爆の実相や異文化理解に関する講義等の事前研修 3 回
- ② 平和記念公園を訪れる外国人観光客へのガイド活動 8 回
- ③ 国連関係者、平和記念式典に参列する各国大使等、平和学習のために広島を訪れる大学生等へのガイド活動 8 回



ユースピースボランティアのガイド活動の様子

20 平和・戦争に関する博物館等とのネットワーク

3年ぶりに対面開催となった第30回日本平和博物館会議（加盟館：10館）に参加し、平和博物館の課題についての協議や情報交換を行いました。

期 間 令和5年11月9日（木）～10日（金）

開催地 長崎原爆資料館

21 展示・収蔵資料等の調査研究

平成10年度（1998年度）に発足した有識者で構成する「広島平和記念資料館資料調査研究会」（会員名簿は下に掲載）によって、原爆・平和などに関わる各分野の資料の調査・収集、学術的考証・分析などの調査研究が進められ、その成果は、資料館の常設展示や企画展などに反映されています。

会 員 名 簿

令和6年3月24日現在

区 分	氏 名	対 象 分 野	現 職
会 員	みずもと かずみ 水本 和実	国際関係論（核軍縮、安全保障等）	広島市立大学名誉教授
副会長	よしだ ゆきひろ 吉田 幸弘	プロダクトデザイン、空間デザイン	広島市立大学芸術学部教授
監 事	くぼ た あきこ 久保田 明子	アーカイブズ学研究	広島大学原爆放射線医科学研究所助教
監 事	しじょう ち え 四條 知恵	歴史学	広島市立大学広島平和研究所准教授
会 員	かみや けんじ 神谷 研二	医学（放射線生物学）	公益財団法人放射線影響研究所理事長
会 員	こうづま ようせい 高妻 洋成	保存科学（有機質材料）	独立行政法人国立文化財機構 文化財防災センター長
会 員	さ ど のりこ 佐渡 紀子	国際政治（国際安全保障）	広島修道大学国際コミュニティ学部教授
会 員	たかはし ひろこ 高橋 博子	アメリカ史（核兵器関連資料調査）	奈良大学文学部 教授
会 員	たけさき よしひこ 竹崎 嘉彦	地理（地図・航空写真）	中国書店
会 員	ねもと まさや 根本 雅也	社会学	一橋大学大学院社会学研究科専任講師
会 員	まつだ ひろし 松田 弘	近現代美術史	東広島市立美術館館長
名誉会員	いしまる のりおき 石丸 紀興	建築学（建築計画、都市計画・形成史等）	(株)広島諸事・地域再生研究所代表

令和5年度の研究テーマ

米国トランプ政権の誕生と核兵器禁止条約の成立（2017年の核をめぐる動向と論調）
写真記録から読み取る広島城天守の崩壊状況（特別寄稿）

○ 広島平和記念資料館資料調査研究会研究報告の発行

令和 5 年 11 月 22 日（土）、令和 4 年度の研究成果を研究報告第 19 号として発行し、ホームページにも掲載しました。

【会員による研究報告】

- ・久保田明子

「相原秀二資料と「平和データベース」－広島平和記念資料館の文書資料の在り方」

- ・高妻洋成

「展示環境改善の新たな試み(1) エアタイトケース内の有機酸除去への光触媒の検討」

【特別寄稿】

- ・西本雅実

「1945 年 8 月 6 日松重美人撮影写真を読み取る～「広島原爆の撮影者」とともに～」

- ・横田禎昭

「被爆資料の永久保存対策についての覚書～窒素ガス封入実験に関して～」

2 2 次世代と描く「原爆の絵」

平成 16 年度（2004 年度）から「原爆の絵」の制作に取り組んでいます。「原爆の絵」は、被爆体験証言者が修学旅行生等への被爆体験講話の際などに活用し、視覚によって体験内容の理解を深めてもらうことに役立てるとともに、被爆当時の広島^{もとまち}の惨状を描いた絵画として、原爆被害の実相を後世に伝えるための貴重な資料となります。さらに、絵の制作を通して、若い世代の人たちが被爆体験証言者の思いに触れることにより、平和意識の高揚を図り、次世代に被爆体験を継承していくことにつながります。

令和 5 年度は、広島市立基町^{もとまち}高等学校普通科創造表現コースの生徒 16 人が、7 人の被爆体験証言者とともに、「原爆の絵」の制作に取り組み、令和 6 年 6 月に、16 点の作品が完成しました。

これで、「原爆の絵」は合計 229 点となりました。